

景気ウォッチャー調査・近畿地域結果(平成30年1月)

～現状判断は気温要因や野菜の高騰などで5か月ぶりに低下～

- 景気ウォッチャー調査・1月調査の近畿地域の結果は、現状判断[方向性]が5か月ぶりに低下した一方、先行き判断は3か月ぶりの上昇となった。(なお平成28年10月調査より、内閣府方針に基づき各指数を原数値から季節調整値に変更)
- 足元の景気については、株高などの追い風もあって、年始の初売りなどが好調に推移したほか、インバウンド関連も堅調な推移をみせた。ただし、例年よりも寒い日が続いたことで、季節商材の動きにはプラスとなった一方、厳しい寒さで外出が減ったとの声や、徐々に季節商材が品薄となり、販売が鈍化しているといった声も聞かれる。また、野菜価格の高騰による悪影響もみられる。
- 一方、先行きについては、春節以降もインバウンド市場では好調な動きが続くと期待があるほか、春闘での賃上げ効果に対する期待も高まっている。ただし、平昌オリンピックについては、いくつか言及がみられものの、概して期待感は低い。「日本との時差がないため、(テレビ観戦により)外出が鈍化する」、「オリンピック終了後の開催地への旅行需要も、あまり期待できない」といった声が聞かれる。

「気温要因」関連のコメント(現状判断)

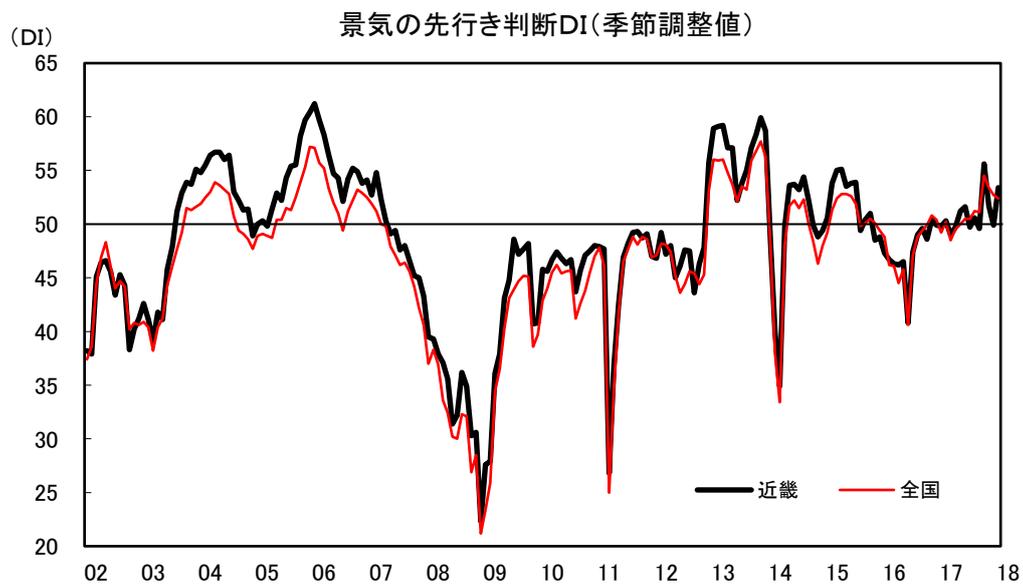
家計動向関連	やや良くなっている	百貨店(営業担当)	・来客数が前年に比べて上向いている。例年この時期は、気温が低いと高齢者の来店が減っていたが、まだ冬物商材が売れている。
		百貨店(サービス担当)	・今月もインバウンド効果に変化はなく、好調に推移し、来客数も前年比で約10%増となっている。また、寒波の影響で、防寒衣料を中心に婦人、紳士、子供用の衣料品が好調である。
		百貨店(服飾品担当)	・新たな年になり、年初からクリアランスセールが始まった。今冬のクリアランス商戦は、気温低下の後押しなどで防寒商材の売上が良く、婦人服は前年比で約4%増えている。また、ネックウェアなどの雑貨関連の売上も、前年に続いて2けた以上伸びるなど、中旬以降の落ち着きはあるものの、商戦としては順調であった。直近の数シーズンにわたって好調な化粧品関連は、依然として都心、郊外店舗共に好調を維持し、特に新たに開発されたシワ改善などの開発商材の伸びが堅調となっている。
		百貨店(商品担当)	・天候や気温も味方し、初売り以降、冬物セールも順調である。少し息切れの部分はあるものの、衣料品が好調に推移している。また、前年から好調なインバウンド売上は、化粧品や高級ブランド、時計などを中心に、売上全体を押し上げている。
		その他専門店[医薬品](経営者)	・気温の低い日や温度差の大きな日があり、風邪薬やドリンク、カイロといった保温商品のほか、保湿クリームなどの動きが良い。
変わらない	変わらない	一般小売店[時計](経営者)	・相変わらず時計の動きは良くなく、寒波の影響で、気温の低い日は来客数がゼロの日もあった。天候が良い日は、電池交換の客が安定して増えている。単価が低く、売上は余り伸びていないが、電池の交換や修理の需要は底堅いと感じる。
		一般小売店[衣服](経営者)	・今月は来客数の伸びが少なく、ほぼ前年並みで推移したが、厳しい寒波のために防寒具が例年になく売れ、コート類が大健闘したため、客単価は10%近く伸びている。
		百貨店(売場主任)	・1月に入ってから、寒波の影響で入店客が1%減と前年を割り込んでいる。前月から基調は後退したと感じられる。
		百貨店(売場主任)	・今月も目標達成の見込みである。年始のバーゲンが好調なほか、気温の影響もあり、防寒商品の売上も前月に続いて好調である。さらに、インバウンドの売上も伸びている。ただし、従来と傾向は大きく変わっておらず、全ての店、アイテムが順調とは言いがたく、偏る傾向にある。国内客の購買についても、依然として慎重さがみられる。

家計動向関連	変わらない	百貨店（役員）	・地方都市では、インバウンド需要の影響がほとんどない。株高で富裕層による高額品の購入は一部で見られるが、品ぞろえで大手との差があり、大きく伸びることはない。ただし、今年はコートやアウターの冬物衣料が、気温の低下で例年よりも好調に推移したほか、化粧品や食料品などが堅調に売れている。やはり中間所得層が消費の動向を左右することは間違いない。今後、大手企業を中心に賃上げが行われるが、地方都市では中小企業が大部分であり、賃金は伸びず、社会保障費などの負担増で可処分所得も増えていないのが実情である。必然的に、日用雑貨中心の消費になり、そのほかの買物については慎重にならざるを得ない。
		百貨店（マネージャー）	・福袋や初売りのクリアランスは、ボリューム商材を中心として、冬物の防寒商材などに順調な動きがみられたが、中旬以降は止まった。地区全体でも、インバウンドの好調は続いているが、国内の中間層の動きは、分野や状況による2極化が進み、高額消費と節約消費に分かれている。
		百貨店（売場マネージャー）	・前半は入店客数が前年を上回るペースで好調に推移したが、中旬以降は寒波の影響もあり、客足が鈍っている。衣料品は冬物商品が薄気味なため、春物需要で喚起したいが、寒波の影響で伸び悩んでいる。ただし、化粧品や高級輸入ブランドは、インバウンド売上を除いても引き続き順調なため、全体としては前年並みである。
		百貨店（販促担当）	・今月も厳しい冷え込みに対し、前半は防寒品を中心に好調に推移していたが、後半に入りやや失速した。12月から動いている関係で、先行購買の反動減といった影響が出ている。月全体で見れば、ほぼ前年並みの推移となりそうである。
		スーパー（経理担当）	・野菜価格の上昇が続き、売上の底上げにつながっている。主力の鍋物商材が食卓に上がる回数が増えると懸念されたが、気温の低下もあり、大きな影響はみられない。ただし、引き続き野菜の相場動向には敏感にならざるを得ない。
		スーパー（企画）	・年末年始の小売は好調で、気温の低下や一部での降雪もあり、食品以外でも冬物商材が堅調に推移した。ただし、ここへきて1月中旬～下旬の寒波の影響で、交通の乱れや客足の減少につながっている。
		タクシー運転手	・寒い時期であるため、近距離でも乗ってもらえるが、長距離の利用が少ない。飲み会なども余り多くはなく、横ばい傾向である。
	テーマパーク（職員）	・寒さのせいか、来場者が減少している。春の観光シーズンには回復することを期待している。	
	やや悪くなっている	百貨店（営業担当）	・インバウンドの売上は従来どおり好調であるが、優良顧客の高額消費が落ち込んでいる。寒さの影響とも考えられるが、高級ブランドの宝飾品の買上が減っている。
		百貨店（マネージャー）	・1月の売上は、初売りの福袋が好調で、冬のセールの日巡りも良く、前年比で2けた増の好調なスタートとなった。ただし、中旬から下旬にかけての寒波の襲来で、来客数が激減し、衣料品やリビング用品が苦戦した。免税売上も、中国の春節期間が前年よりも遅いため、増加率が鈍化している。
一般レストラン（経営者）		・年明け以降、3か月前に比べて来客数が激減している。特に、企業関係の新年会の減少が目立つ。忘年会の予算を上げる一方、新年会は行われるかどうかという傾向にある。また、急激な気温の低下が続いている影響もあり、外食産業が低迷している。仕入価格の高騰により利益も少なくなっている。	
住宅販売会社（総務担当）		・例年この時期は、寒冷地での不動産契約が減少するが、今年は特に落ち込みが激しい。	

「平昌オリンピック」関連のコメント(先行き判断)

家計動向関連	変わらない	都市型ホテル（支配人）	・平昌オリンピックが終了するまでは、客の動きは鈍い。
		旅行代理店（支店長）	・平昌オリンピックで出控えが起きるものの、通常はオリンピックの終了後、その地域への旅行需要が高まる。ただし、今回は韓国ということもあり、政治的な問題の影響もあるため、客との会話では大きな変化はない。
	やや悪くなる	百貨店（販促担当）	・平昌オリンピックは日本との時差がないこともあり、2月は外出が鈍化しそうである。寒さも続く見込みであり、春物の動きが鈍くなることも懸念される。3月以降は見通しが不透明で、気候に左右される部分が大きいいため、防寒機能もある春色商材の売り方の工夫が必要である。
		テーマパーク（職員）	・平昌オリンピックの後に、朝鮮半島で大きな動きがあるのかどうか気がなる。もし動きがあれば影響は避けられないが、経済活動にどう影響するのか予測しにくい。
企業関連	変わらない	金融業〔投資運用業〕（代表）	・変わりようがない。思い切って平昌オリンピックに選手も派遣しないなど、政府が強いリーダーシップを示せば、何かしらの突破口になるかもしれないが、そのような決断はあり得ない。

(DIの推移)



(近畿地域のDI)

		年 16										17										18									
		月 1	2	3	4	5	6	7	8	9	10	11	12	1	2	3	4	5	6	7	8	9	10	11	12	1					
現 状 判 断	近畿	47.9	45.1	40.6	41.6	42.4	40.0	45.9	46.1	45.5	47.1	51.7	53.6	50.3	49.7	48.7	48.4	50.4	51.7	52.2	51.2	51.8	53.3	55.2	56.2	52.4					
	(全国)	47.3	44.2	42.5	40.9	42.0	41.3	44.1	46.2	46.3	48.3	50.5	50.7	49.4	48.8	47.9	48.5	49.1	50.0	49.9	50.0	51.1	52.0	54.1	53.9	49.9					
先 行 き 判 断	近畿	47.3	46.7	46.3	46.2	46.5	40.8	47.4	49.0	49.6	48.6	50.4	49.9	49.8	50.3	49.0	49.7	51.2	51.6	49.7	50.6	49.6	55.6	51.7	49.9	53.4					
	(全国)	48.8	46.2	46.1	44.5	45.8	40.6	47.1	48.8	49.4	49.9	50.8	50.4	49.2	50.2	48.5	49.5	50.0	50.5	50.5	51.2	51.1	54.5	53.4	52.7	52.4					